

中京大学英米文化・文学会 春季大会特別講演会

「英語の構文における基本形と変種
：文法拡張のメカニズムを探る」
名古屋大学教授 大室剛志氏

6月2日、名古屋キャンパス5号館532教室において、名古屋大学大学院文学研究科教授大室剛志氏による講演会が国際英語学部英米文化学科と中京大学英米文化・文学会の共催で開催された。演題は「英語の構文における基本形と変種：文法拡張のメカニズムを探る」で、氏は、まず基本形と変種を考える出発点として、語の意味に見られる変異に触れた。具体的には、climb という語の基本的意味は「上方への移動」と「手や足を使っての移動」の二つの概念がその中核だと考えられるが、場合によっては「上方へ」の意味が打ち消されて、「降りる」の意味で使われたり、「手や足を使って」の意味が消え、蛇などが木に登る場合にも使えたりするが、この場合、移動の方向は「上方」に限られ、蛇などが木を降りる場合には核となる2つの概念が含まれないことになるため、climb は使えない。このように、言語には基本形とそれをある程度拡張するメカニズムが存在し、これが言語表現の豊かさをもたらしているというのが本講演のメインテーマである。

氏は、この「基本」と「変種」を繋ぐ拡張メカニズムという観点から英語の慣用的な構文 (had/would rather など) における様々な変異形を読み解いていく。豊富な実例に基づいた緻密な説明に、

当日集まった多くの学部学生や外部参加者が英語の奥深さを改めて実感させられたに違いない。

(国際英語学部教授 足立公也)